

1 協議会の開催

R5.4.17 第14回保全協議会：活動計画等

R5.12.21 第15回保全協議会：経過報告等

2 保全地等での活動

日	内容	備考
4.25	第14回保全協議会	
5.13	除草作業	
5.28	外来植物オオキンケイギク等駆除会	ニコボラ、高校生他【47名参加】
5.7	保全地除草作業	社協委による作業
7.25	大学研究者来所	
9.30	除草作業	
10.14	8:00～1h 除草作業	
R5.10.22	ツツジザキヤマジノギク観察会 及び環境整備	【50名参加】
10.25	追加マーク作業	10名参加
その他	研究者による調査活動 中学生の授業学習	対応 小島

3 今年度特徴的な活動

- ・令和4年度の反省から草刈りを充実させた。(5/7 5/28 9/30 10/14)
- ・松川中学生が総合の時間でテーマとして学んだ、その内容は、現地等で発表した。
- ・観察会に合わせ、のぼり旗を作製した。現地に目印ができ、報道等でも取り上げていただいたことから、花の観察に県内外からの訪問があった。
- ・筑波実験植物園が持ち帰った種は生育していることについて報告があった。
- ・大学の関係者が本格的に保全地での研究を開始した。

4 課題等

- ・自生地は、令和3年度の豪雨等により環境の変化があり令和4年春に保全地を造成していただき、種、種苗の定着を図ってきたところ、本年度秋には台地に花が多く咲いた。
- ・今後は、リスク回避のための一部の種の確保を行うのみで、自然に種が広がっていくことが期待される
- ・東京都の多摩川でヤマジノギクの保全活動を行う団体が現地を視察された。今後、同様の団体の取り組みの学習や連携をして、当町の取り組みを深めていくなどの取り組みも考えられる。
- ・特に町民の方々に、広く活動や町の資源としての理解を深めてもらうことが必要であり、そのために話題づくりや報道等で取り上げていただくような取り組みも必要。
- ・引き続き、外来種の駆除などを継続させることが必要。
また、関係機関、植物の研究者・専門家との連携の継続が当面の課題と考える。